

# 紙飛行機を飛ばすために必要なことについて

22111337 松井亮輔  
22111337rm@tama.ac.jp

久保田ゼミでは、多摩祭における出し物として、紙飛行機を飛ばすイベントを開催した。そこでは、来場者に自ら紙に「夢」をペンで書いてもらい、そしてその紙を紙飛行機に折ってもらい、最後に飛ばしてもらった。そのイベント中で、我々は、夢の内容と折り方によって飛距離にはどう関係があるのか？と疑問を持つようになった。

そこで、収集したデータを整形し、分析することによって「夢」と飛距離の相関について、考察することにした。具体的には、紙に書いてもらった「夢」を、ゼミ生のみんなで得点化し、また、飛距離と折り方のデータと突合することで、分析しさらに考察することにした。

分析方法としては、相関分析とt検定を実施した。まず、データを視覚化し、傾向を掴み得点化した夢と飛距離の相関関係を分析した。

結果として、夢の記録と飛距離の間には大きな関係はなかったが、紙飛行機の折り方と飛距離の間には関係があり、特に、隼型とギネス型という折り方をした紙飛行機が平均的にいい記録を出していた。このことから紙飛行機を遠くへ飛ばす時は折り方を工夫するのがいいと考えられる。

なお、本研究は、久保田ゼミ2年・3年生の岩田真歩、橋口月、相田謙次、浅岡航平、市倉僚、鈴木悠斗、松井亮輔、松田龍哉の共同研究である。